

県本部・活動拠点本部会議(8月7日・朝)議事要旨

■決まったこと

●マスコミ取材(読売新聞)への対応お断りの徹底

・保健医療福祉調整本部会議での報告に基づき、許可のない会議室参入やビブス未着用などの問題行動・ルール違反が懸念されたため、読売新聞社からの DWAT/DCAT への同行取材および現場対応は原則「お断り」とすることで統一。

→NHK などその他の報道機関については、個別に本部へ協議の上で判断・対応。

●派遣 DWAT チームの担当区割り(地域包括・学校区単位)の緊急決定と運用

・各県からの応援チーム(宮崎、長崎、香川、佐賀等)の本格参入にあたり、現場での手持ち無沙汰やバッティングを防ぐため、地域包括支援センター単位や中学校区単位などの「担当区割り」を速やかに明確化し、固定的な巡回・引き継ぎ体制へ移行。

●拠点ごとの応援 DWAT 役割分担の決定

・八代拠点：岡山県 DWAT は拠点本部のサポート業務を担当。福岡県 DWAT は久留米チーム(第2クール・15時頃到着予定)へ業務引き継ぎ。

・宇城拠点：新規到着の香川県 DWAT は大分県 DWAT とペアを組み、現場確認および引き継ぎを実施。

●氷川拠点における公式調整会議への正式参画

・氷川町保健センター(9:30～)および氷川公民館(福祉避難所)の定例会議に DWAT が正式参画し、DMAT・JMAT・役場等との公式な連携体制を確立。

●東陽地区(東陽コミュニティセンター)の担当移管

・八代市東陽町の避難所(東陽コミュニティセンター)について、地理的アクセスおよび巡回効率を考慮し、八代拠点から「氷川拠点」に担当を移管して対応。

●引き継ぎ手続および要項の厳格適用

・チーム交代時は「熊本地震ポータルサイト」掲載の要項に沿って統一された引き継ぎ項目を共有。新規派遣県には本部から zoom 等で事前説明を行う。

1. 各地域からの報告(避難人数、状態、課題等)

●八代地域

【八代拠点】(体制：熊本 2, 長崎 4, 福岡 5, 岡山 1, 宮崎[到着待ち])

・本日の動き

→総合体育館(アリーナ)：300名超の避難者が滞在。ニーズ対応、住所マッピ

ング、入浴介助ニーズの把握、要配慮者対応を継続中。

→避難所巡回・ラピッド：鏡地区（鏡小学校・鏡中学校）のラピッドアセスメントを実施予定。

→福岡県チーム交代：15:00 頃に久留米チーム（第 2 クール）が到着予定、業務引き継ぎを実施。

→共有事項：地域包括支援センター（第 1 包括/鏡包括）からの依頼により、安否確認が取れていない在宅の要援護者（独居・高齢者等）に対する個別訪問・確認作業を優先的に支援中。

→課題・懸念：福祉避難所への移行支援（「出す支援」）が停滞気味であるためテコ入れが必要。緊急個別訪問に追われ他県チームの地域区割り決定が遅れていたため、本日急ぎ確定させる。

●宇城地域

【宇城拠点】（体制：熊本 2，大分 9[うち第 1 陣 5 名は本日 14 時まで]，香川 4[新規到着]）

・本日の動き

→新規受入：香川県 DWAT（4 名）へオリエンテーションを実施し、大分チームとペアで現場巡回・引継ぎを開始。

→個別対応：保健師からの依頼に基づき、3 箇所の避難所で計 12 名の個別アセスメント・対応を実施。

→ラピッド完了：管内全避難所（11～12 箇所）の 1 巡目ラピッドアセスメントは昨日までに完了済み。

→特記事項：小川防災拠点センターは明日段ボールベッド設置予定（一時小川中学校へ避難後戻る計画）。

→課題・リスク：不知火（しらぬい）防災拠点センターの高齢者施設避難者（重要懸念）：2 ユニットのグループホームおよび住宅型有料老人ホームの利用者計 19 名が避難中。劣悪な環境下であり、10 名は施設帰還予定、残り 8 名は来週まで検討（1 名入院）。施設の建物被害や職員体制も含め本当に帰還可能か懸念が大きく、慎重な対応が必要。

→常駐要請の確認：保健師より避難所への「DWAT 常駐」要請が出ているが、常駐の具体的な目的や巡回で代替可能か等の確認が必要。

●氷川地域

【氷川拠点】（体制：佐賀県 DWAT[本日着]，鳥取県 DWAT[明日着予定]）

・本日の動き

→受入・連携：本日 10:00 着の佐賀県 DWAT に現状説明。役場および保健センター会議（9:30～）へ出席。

→医療連携：氷川公民館（福祉避難所）にて DMAT/JMAT とのホットラインを設置。JMAT との意見調整を行い、DWAT の主体的な動向・対応をバックアップする方針で合意。

→東陽地区巡回：八代市東陽コミュニティセンターの避難所巡回を担当・実施。

→今後の予定：明日鳥取県 DWAT が合流次第、残り 3 箇所の避難所のラピッドアセスメントを本格開始。福祉避難所（氷川公民館）の空きベッド（5 床）の活用（娯楽・リフレッシュスペース化等）を検討。

3. 今後の方針

●広域支援 DWAT チームの組織的運用体制の確立

・今後さらに多くの支援団体が参入するため、各チームが手持ち無沙汰にならず車・人的資源を生かせるよう、地域包括支援センター単位・学校区単位での「担当地区割り」を全拠点で即座に確定させ、計画的な巡回と情報引き継ぎを行う。

●福祉避難所への移行支援（「出す支援」）および施設復帰支援の推進

・大規模避難所（八代アリーナ等）における要配慮者の抽出と福祉避難所への移行を強化。不知火防災拠点センターに避難中のグループホーム利用者等の早期環境改善および施設帰還の実現性を慎重に見極め支援。

●標準化されたアセスメントとスムーズな引き継ぎの徹底

・ラピッドアセスメント未完了地域（氷川町の残り 3 箇所等）を早期にクリアする。交代時にはポータルサイトの「要項」に基づき、活動内容・継続課題・要配慮者情報を確実・フォーマット化して伝達する。

4. その他

●報道関係者・メディア対応のルール周知

・外部メディアの無用な現場混入やプライバシー侵害を防止するため、不審な取材陣への警戒と本部統一方針（読売お断り、その他は本部相談）を周知徹底。

・派遣名簿・人員リストデータの即時更新：大分県チーム等の名簿データ漏れに対応し、本部・拠年間でリアルタイムに最新の動員名簿を共有・修正する体制を整える。

・現場における安全衛生管理・事故防止：連日の活動に伴う隊員の疲労に留意し、移動時の交通安全、熱中症・感染対策、体調管理を徹底して二次災害防止に努める。